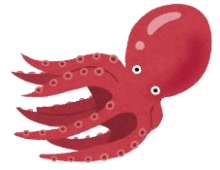




感染症週報

令和6年4月22日発行



小笠原での流行状況

第16週（4月15日から 4月21日まで）

父島 特別な感染症の報告はありませんでした。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

【主な感染症】

第15週（令和6年4月8日～4月14日）

インフルエンザ	(減少)
COVID-19	(減少)
咽頭結膜熱	(増加)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(増加)
感染性胃腸炎	(→)
水痘	(→)
手足口病	(減少)
伝染性紅斑	(→)
突発性発しん	(増加)
ヘルパンギーナ	(→)
百日咳	(→)
風しん	—
流行性耳下腺炎	(→)
RSウイルス	(増加)
流行性角結膜炎	(→)
無菌性髄膜炎	—
マイコプラズマ肺炎	(増加)
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	(増加)

※ 赤字の感染症は警報または注意報レベルは報告なし、(→)は大きな変動がないことを表します。

感染症メモ

- インフルエンザの定点当たり報告数は、1.96で前週より減少しています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、1.62で増加傾向です。
- SFTSの症例は西日本を中心に報告されていましたが、近年はSFTSを媒介するダニの生息域が拡大しており、注意が必要です。

参考文献：東京都感染症情報センター

SFTS重症熱性血小板減少症候群

原因と感染経路

病原体はSFTSウイルス（SFTSV）で、**ウイルスを保有しているマダニに直接咬まれること**、もしくはマダニに咬まれて感染した動物の体液などにより感染します。感染患者の血液、体液との接触感染も報告されています。

※マダニは野外に生息する大型のダニで、屋内に生息するダニとは種類が異なりこの疾患とは関係ありません。



症状

潜伏期間は6日～2週間程度です。主な症状は発熱と消化器症状（おう吐、下痢など）が中心で、倦怠感、リンパ節のはれ、出血症状なども見られます。患者は高齢者が多く、致死率は27%とする報告があります。

治療

臨床的に有効性が確立された抗ウイルス薬はまだなく、症状に応じた対症療法が行われます。

予防のポイント

この疾患に対する有効な予防接種はありません。予防のためには、**野外でマダニ等に咬まれないようにすることが大切**で、特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要です。草むらや、やぶなど、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。また、もし吸血中のマダニに気づいたら、無理に取り除かず医療機関を受診しましょう。感染者の血液、体液、排泄物との直接的な接触も避けるようにしましょう。

動物もSFTSVに感染し、SFTSVに感染した犬や猫から人が感染した例も報告されています。**野生動物や衰弱している動物には触らないようにしましょう**。動物に口移しで餌を与えるなどの過剰な接触は避け、動物を触った後は必ず手洗い等を行ってください。飼育している動物にマダニがついていないかなど、日頃より動物の健康管理に努め、健康状態不良時は動物病院に相談してください。

マダニに注意



→ 詳細は
こちらを
ご覧ください



マダニにご注意！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所